

連携施策群「総合的リスク評価による化学物質の安全管理・活用のための研究開発」 活動報告

第3期科学技術基本計画の下、環境分野では、化学物質のリスク評価・安全管理に関する研究開発を推進している。関係各府省の連携強化を図り、戦略重点科学技術を中心とする化学物質のリスク評価・管理手法の研究開発を促進し、ライフサイクル全体でのリスク評価を推進し、さらに、研究開発の成果を国際的な化学物質の安全に関する基準や制度調和に役立てる方策を探るため、科学技術連携施策群「総合的リスク評価による化学物質の安全管理・活用のための研究開発」を平成19年度より開始し、以下の研究目標を掲げた。

- 目標1：「化学物質の有害性データと曝露データを充分に取得し、化学物質のライフサイクル全体でのリスク評価を実現する」
- 目標2：「資源を有効活用しつつ、化学物質のトータルリスクを最小にする社会システムの形成に役立つ適正管理手法の研究開発を推進する」
- 目標3：「環境問題の発生を未然に防ぐ国際基準の策定や規制の枠組づくりに積極的に国際貢献する研究開発を推進する」

加えて、関係各府省の施策を補完する課題を設定し、科学技術振興調整費によって下記の補完的課題を採択し、調査・研究を行ってきた。

科学技術振興調整費「化学物質情報プラットフォームの構築とその活用に関する調査研究」
採択課題名：事業者の化学物質リスク自主管理の情報基盤（平成19年度～21年度）
研究代表者：三宅淳巳 横浜国立大学大学院環境情報研究院・教授

平成21年度は本連携施策群の最終年度にあたるため、3年間の連携活動、研究成果及び研究目標の進捗状況、残された問題点、今後の課題等について、現在、フォローアップの結果を取りまとめ中である。本年6月までに最終案を作成し、総合PTへ報告の予定である。

本連携施策群では、各省間の連携（施策内容の情報交換、研究開発における連携、研究成果の共有等）も生まれ、また化学物質のリスク評価・管理については、社会的ニーズも高いことから、連携施策群終了後の関係各府省・機関の連携のあり方について、現在、検討を進めている。

以下に、3年間のタスクフォース会合と平成19年度、20年度シンポジウムの開催記録、最後に平成21年度シンポジウムの概要を報告する。

タスクフォース会合の開催

【平成19年度】
第1回タスクフォース会合（各省連携会議（1））（平成19年7月25日開催） 議題：・連携施策群の施策マップの意義と経緯について ・平成19年度の施策マップの作成について
第2回タスクフォース会合（各省連携会議（2））（平成19年10月17日開催） 議題：・平成19年度の施策マップ（改訂版）について ・補完的課題について ・連携施策群シンポジウムの開催について

第3回タスクフォース会合（平成19年10月25日開催） 議題：・平成19年度採択課題における曝露評価の課題抽出について
第4回タスクフォース会合（各省連携会議（3））（平成19年11月5日開催） 議題：・補完的課題の今後の進め方について
第5回タスクフォース会合（平成19年12月21日開催） 議題：・有害性評価について
第6回タスクフォース会合（各省連携会議（4））（平成19年12月25日開催） 議題：・平成19年度採択課題における曝露評価の課題抽出について（第2回）
第7回タスクフォース会合（各省連携会議（5））（平成20年3月24日開催） 議題：・補完課題の平成19年度成果報告について ・補完課題の平成20年度実施計画について
【平成20年度】
第1回タスクフォース会合（平成20年5月29日開催） 議題：・補完的課題の平成20年度活動方針について
第2回タスクフォース会合（各省連携会議（1））（平成20年8月22日開催） 議題：・平成20年度シンポジウムの開催について ・補完的課題の中間報告
第3回タスクフォース会合（各省連携会議（2））（平成21年3月6日開催） 議題：・化学物質の安全管理・活用に関する関係府省の平成20年度施策の進捗および平成21年度施策の概要について ・補完的課題の平成20年度成果および平成21年度業務計画について
【平成21年度】
第1回タスクフォース会合（平成21年6月3日開催） 議題：・補完的課題の平成21年度活動方針について ・補完的課題の進捗状況について（業務計画書の達成状況を中心に）
第2回タスクフォース会合（各省連携会議（1））（平成21年7月31日開催） 議題：・化学物質の安全管理・活用に関する関係府省の平成21年度施策の進捗状況について ・補完的課題の平成21年度業務計画および進捗状況について ・連携施策群終了後の連携について
第3回タスクフォース会合（各省連携会議（2））（平成22年2月5日開催） 議題：・科学技術連携施策群化学物質の安全管理・活用連携群の取りまとめについて ・補完的課題の成果報告（最終）について ・科学技術連携施策群終了後の連携について

シンポジウムの開催

【平成19年度】
平成19年度対象施策成果報告会「総合的リスク評価による化学物質の安全管理・活用における各省の取り組み」 日時：平成20年2月6日（木） 10：00～17：00 場所：日本科学未来館みらいCANホール 主催：内閣府、 共催：文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省
【平成20年度】
平成20年度対象施策成果報告会「化学物質管理におけるリスク-ベネフィット」 日時：平成21年1月29日（木）10：30～16：30 場所：社会福祉法人全国社会福祉協議会 灘尾ホール 共催：文部科学省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省、環境省

シンポジウム開催報告

科学技術連携施策群 総合的リスク評価による化学物質の安全管理・活用のための研究開発
平成 21 年度対象施策成果報告会「化学物質管理による『安全』と『安心』」

1. 趣旨

化学物質管理に関する国内外の最新動向および化審法の改定の概要について話題提供し、加えて各省で取り組んでいる研究課題および成果を紹介する。さらに、「リスク評価と認識のされ方」と題し、今後の化学物質のリスク管理、社会的な合意形成について関連研究者間でパネルディスカッションを行い、議論を深める。

2. 日時・場所

平成 21 年 12 月 16 日（水）10：00～16：00

社会福祉法人 全国社会福祉協議会 灘尾ホール（新霞ヶ関ビル LB 階）

3. 主催・共催

主催：内閣府 共催：文部科学省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省、環境省

4. シンポジウム概要

本シンポジウムは、科学技術連携施策群の活動報告、基調講演、平成 21 年度科学技術振興調整費採択補完的課題成果報告、各省施策の報告、パネルディスカッションの 5 部構成である。概要は以下のとおり。

- (1) まず、化学物質管理・活用連携施策群の安井至コーディネータ・主監が「化学物質管理の進展～安全と安心が 3 年間でどこまで達成されたか～」と題する全体の概観を講演された。続いて、基調講演として、(独)産業技術総合研究所の中西準子研究部門長より「常識を科学にしたかった - リスク評価に取り組んで - 」と題し、講演があった。
- (2) 平成 21 年度科学振興調整費採択補完的課題成果報告として、横浜国立大学大学院環境情報研究院の三宅淳巳教授より「事業者の化学物質リスク自主管理の情報基盤」と題する発表があった。
- (3) 各省施策については、まず厚生労働省の施策が報告された。「化学物質の有害性評価手法の迅速化、高度化に関する研究 - 網羅的定量的大規模トキシコゲノミクスデータベースの維持・拡充と毒性予測評価システムの実用化の為にインフォマティクス技術開発 - 」と題し、国立医薬品食品衛生研究所安全性生物試験研究センターの菅野純部長より報告があった。経済産業省の施策については、「化学物質の安全性評価におけるカテゴリーアプローチおよび insilico 評価支援システムの開発」と題し、(財)食品脳医薬品安全性評価センターの林真センター長より報告があった。国土交通省の施策として、「水環境における微量化学物質の実態とその水生生物への影響評価」と題し、(独)土木研究所水環境研究グループ

水質チームの南山瑞彦上席研究員より報告があった。環境省の施策は、「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」と題し、(独)国立環境研究所環境健康研究領域環境疫学研究室の新田裕史室長より報告があった。

- (4) 安井コーディネータ・主監をモデレータ、埼玉県環境部の天下井昭主幹、国立医薬品食品衛生研究所の菅野純部長、大阪大学大学院の東海明宏教授、(社)日本化学工業協会の豊田耕二常務理事、元上智大学教授の中杉修身氏、横浜国立大学大学院の三宅淳巳教授をパネルとして、「化学物質管理と『安全・安心』に向けての今後の課題」と題するパネルディスカッションが行われた。